

■大山綱良 地元出身として異例の初代鹿児島県令となるも、〈西南戦争〉で西郷軍を支援し、斬罪に。

おおやまつなよし

異国船打払令1825＝ 鹿児島藩士樺山善之進の次子として鹿児島に生まれ、

のち大山四郎助の養子となった。家禄136石。

シボム事件・1828＝ 3歳：

高島砲術・1834＝ 9歳：

大塩平八郎乱1837＝12歳：

順天堂始・1843＝18歳：

阿部正弘首座1845＝20歳：

若いころ薩藩下級武士子弟の内職である城の茶坊主となり正円と称した。

万次郎帰国・1852＝27歳：

ペリー来航・1853＝28歳：

桜田門外変・1860＝35歳：

遣欧使節・1861＝36歳：

生麦事件・1862＝37歳：

*島津久光の率兵公武周旋に随従、伏見寺田屋に屯集して久光の公武合体方針に反抗した有馬新七ら薩藩尊攘派首脳を、久光の命をうけ奈良原繁らと斬る。その功で、供目付となり藩政の一線に進出。

薩長同盟・1866＝41歳：

大政奉還・1867＝42歳：

明治維新・1868＝43歳：

薩藩が倒幕路線に傾斜すると、西郷隆盛の指揮下に活躍、筑前太宰府にいた三條実美ら5卿の警護や帰京幹旋にあたり、倒幕拳兵の協定のため大久保利通と長州藩に使した。藩軍先遣隊を率いて藩地を落ち、王政復古に参加。*戊辰戦争が始まると、征討大將軍嘉彰親王の軍事参謀、ついで奥羽鎮撫総督九条道孝の参謀となって、奥羽地方を転戦、特に秋田藩を新政府側につけるのに功があった。

戊辰戦争終・1869＝44歳：

初の日刊新聞1870＝45歳：

廃藩置県・1871＝46歳：

明治6年政変 1873＝48歳：

佐賀の乱・1874＝49歳：

監察総裁、権大参事心得となり藩政に参与。廃藩置県後、鹿児島県大参事を経て県参事、県権令、*県令となるが、地元出身者が県政責任者となるのは異例のことであり、鹿児島県の特異性を示す。士族に有利な税制・禄制を施行、内務省の県政改革要求を拒否、地方民会開催に反対し、政府に対し半独立的立場をとり、

初の民間工場1875＝50歳：

西南戦争・1877＝52歳：

西郷隆盛の私学校関係者を区・戸長、学校長、警部などに任命し、県を西郷派士族の支配下におき、*西南戦争が勃発すると西郷軍を積極的に支援し、県の公金15万円を軍資金に提供。そのため、官位を剥奪され、長崎で斬罪に処せられた。